

予報期間 7月24日から7月30日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 26日から29日は、高気圧が千島近海から日本のはるか東へ移動する。前線が日本海から東北地方付近にのびる。太平洋高気圧が西日本や沖縄・奄美付近へ張り出す。
- 30日は、低気圧が沿海州付近に進み、太平洋高気圧が東シナ海付近に張り出す。

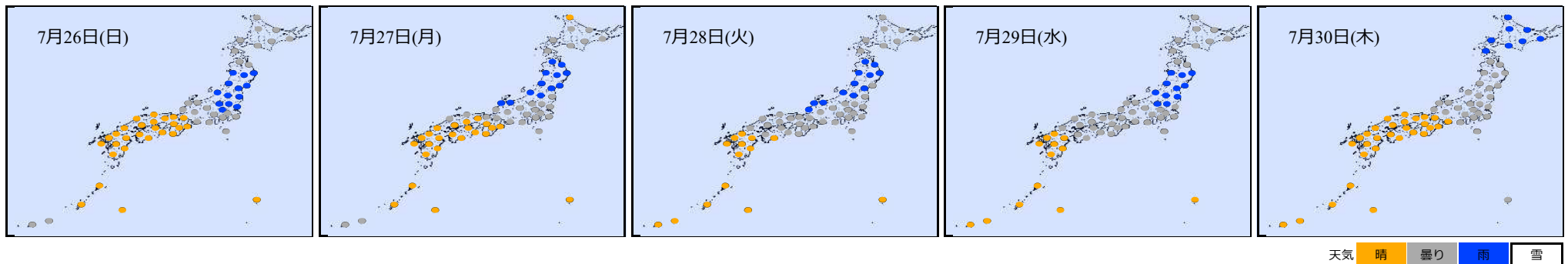
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日頃にかけて、北日本と東日本日本海側では前線の影響で大雨となり、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

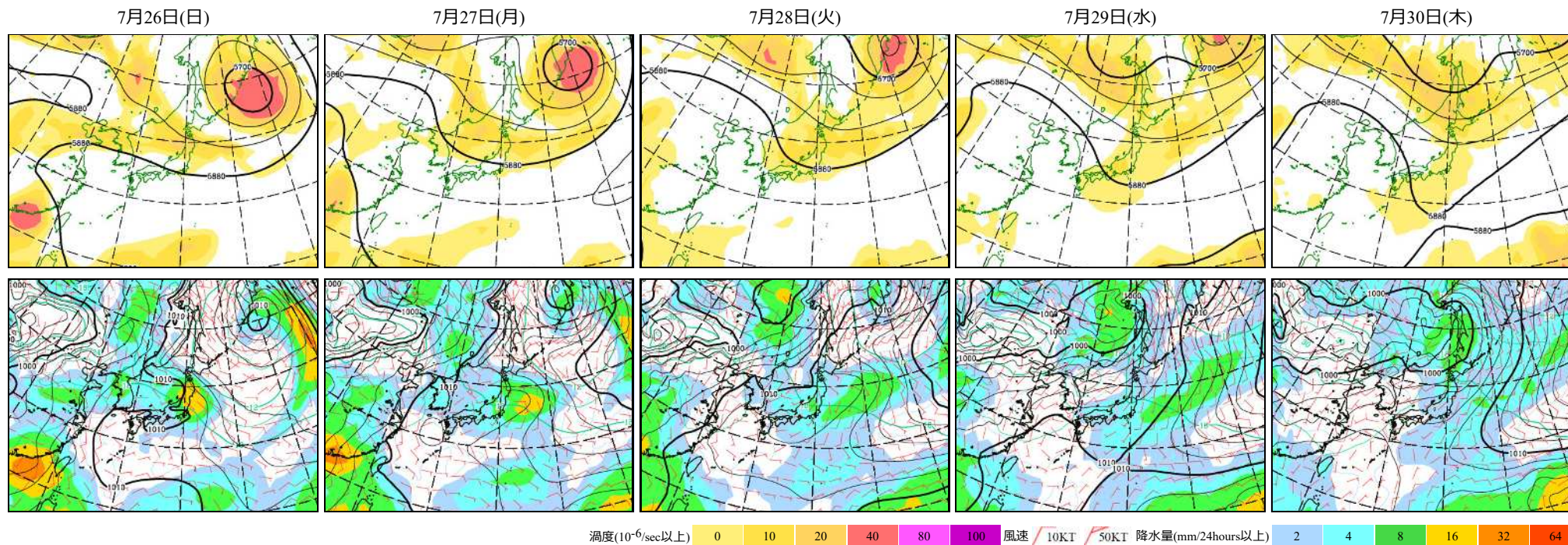
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

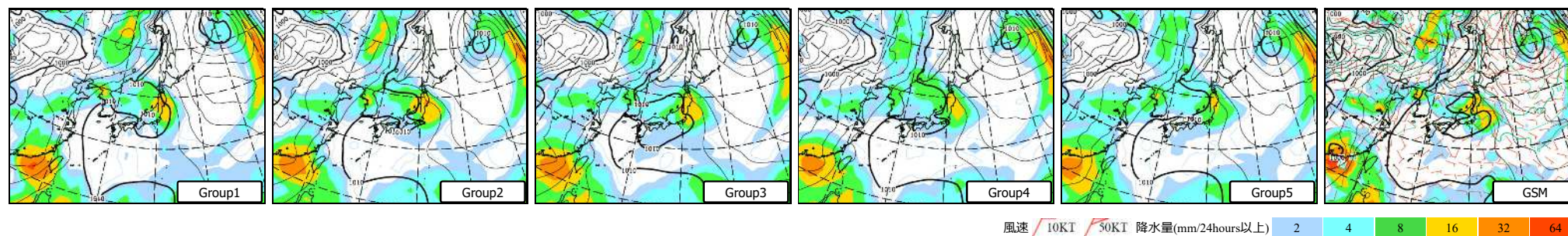


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月26日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日は千島近海付近の高気圧が弱まった。
- モデル間の差は比較的小さいが、期間の後半に北日本付近に進む上空のトラフの進みや形にバラつきが見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、特定高度線は期間の後半にばらつきが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。